

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和03年03月31日

計画の名称	狭山市における安全で安心な暮らしを守る計画的な水質改善と総合的な地震対策の推進												
計画の期間	平成26年度 ~ 平成30年度 (5年間)										重点配分対象の該当		
交付対象	狭山市												
計画の目標	管路施設長寿命化・地震対策を実施することにより、快適で安心・安全な住環境を創造する。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	336	A	325	B	0	C	11	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	3.27	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H26当初)	中間目標値 (H28末)	最終目標値 (H30末)
1	下水道総合地震対策を策定し、耐震化率(管渠)を11.6%(H26)から21.0%(H30)に増加させる。 下水道総合地震対策計画に基づく耐震化率 耐震化済み延長(9.4km)/耐震化対策対象延長(80.9km)	12%	17%	21%
2	下水道長寿命化計画を策定し、老朽化した管路施設の長寿命化対策実施率を0%(H26)から100%(H30)に増加させる。 下水道長寿命化計画に基づく老朽化した管路施設の長寿命化対策実施率 長寿命化対策実施済み延長(0km)/長寿命化対策計画延長(2.5km)	0%	50%	100%
3	下水道長寿命化計画策定からストックマネジメント計画策定へ移行し実施していく。 下水道ストックマネジメント支援制度に基づく計画策定実施率 ストックマネジメント計画策定項目済み数(0項目)/ストックマネジメント計画策定項目数(11項目)	0%	%	100%

備考等	個別施設計画を含む	<input type="radio"/>	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	-----------------------	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
狭山市公共下水道事後評価委員会において評価を行うとともに狭山市上下水道事業審議会へ報告し意見を求めた。	令和2年10月26日
	公表の方法
	市公式ホームページ掲載
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	下水道総合地震対策では、狭山市地域防災計画の見直しにより、対象延長が39km増えたが、国の緊急対策事業による2次補正予算を受けて、耐震診断調査を前倒しして行うことにより、緊急輸送道路等119.9kmにおける埋設管67.9kmの耐震性能の確認ができた。 下水道長寿命化対策事業では、対策対象延長2.5kmの調査診断を実施し、更生工事を行ったことにより、有収率の向上に寄与した。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
下水道総合地震対策については、今後も引き続き対象路線である緊急輸送道路等の耐震診断調査を行い、未耐震箇所の対策を進める。 下水道ストックマネジメント計画については、計画に基づき調査を行い、危険度を把握し、改築工事を速やかに実施する。 今後、管路の耐震化や長寿命化の改築工事を実施するため、更なる交付金の活用に努める。	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	下水道総合地震対策を策定し、耐震化率（管渠）を11.6%（H26）から21.0%（H30）に増加させる。		
	最終目標値	21%	下水道総合地震対策事業については、対象延長119.9kmに対し、67.9kmが耐震化済みとなり、平成26年度末の耐震化率11.6%から令和元年度末の耐震化率56.6%となり、計画していた耐震化率を上回った。
	最終実績値	57%	
2	下水道長寿命化計画を策定し、老朽化した管路施設の長寿命化対策実施率を0%（H26）から100%（H30）に増加させる		
	最終目標値	100%	
	最終実績値	100%	
3	下水道長寿命化計画策定からストックマネジメント計画策定へ移行し実施していく。		
	最終目標値	100%	
	最終実績値	100%	